

## 45-1 施設建築・設備管理・環境保全

## 車いす操作を快適に行うためにタイヤの空気圧の現状調査から見えた課題

博愛記念病院

なかむら けんいちろう

○中村 賢一郎（理学療法士）

## [背景]

我々の日常業務において車いすは非常に身近なものである。車いすとは身体の機能障害などによって歩行に困難のある人の移動を補助する手段として利用され、屋内外を問わず、歩行機能障害のあるものの歩行機能を代替し、そのものの移動に用いられる車輪付きの椅子であると定義されている。

## [目的]

いわゆる「車」と「いす」の両面を持ち合わせている車いすであるが、地面と接するのは車輪のみであり、空気圧の低下したタイヤでは転がり抵抗が大きくなり走行性能が低下する。低下した走行性能を補正するのは使用者もしくは介助者の駆動能力であり、現状を認識し、改善することが双方の負担軽減に繋がるのではないかと考え、今回の調査を実施した。

## [対象]

併施設で使用している車いすを除く、当院で稼働中の車いす80台とした。

## [方法]

車いすのタイヤ空気圧をSERFAS社製デジタルゲージ付きフットポンプにて測定し、タイヤの適正空気圧の値との差異を調査した。デジタルゲージの規格がPSIであり、kPaやkgf/cm<sup>2</sup>の記載のタイヤは1PSI=0.0703kgf/cm<sup>2</sup>で換算した。

## [結果]

車いす点検は毎月実施しているものの、適正空気圧をクリアしている車いすはなかった。平均して適正空気圧の50%程度のものが多く、適正空気圧の20%程度でいしようしている車いすもあった。

## [考察・結論]

現在のチェック体制は目視確認と指圧による空気圧の確認を実施していた。業者によると適正空気圧の維持は1週間に1回のチェックが推奨されている。

安全な車いすの駆動・制動距離を維持するためにも、今回の結果を踏まえてチェック体制の見直しを実施した。空気圧測定は月に1回、毎週決まった曜日に空気の補充を行うことで、より安全に車いすを使用出来るのではないかと。今回、適正な空気圧を測定することで、業務改善の見直しを行うよい機会となり、よりよい環境への改善が図れた。

## 45-2 施設建築・設備管理・環境保全

## 物品紛失減少のための検討

すずかけヘルスケアホスピタル リハビリテーション技術部

よこざわ あさみ

○横澤 諒美（理学療法士）

## 【目的】

物品紛失があると必要な機器が適切に使用できず、適切なリハビリテーションの実施の妨げになる。当院リハビリテーション技術部では、物品管理として物品配置の決定、ラベリング、物品リスト・台帳の作成、1週間ごとの物品紛失の確認を行っている。2015年度以前はグループで1ヶ月ごとに当番制で決められた場所の物品管理を行っていたが、管理するグループが毎月変わるため整理整頓が行き届かないことや物品紛失が多く見受けられた。管理場所を固定することで物品管理の効率化、物品紛失の削減が図れるのではないかと考え、2016年度以降は物品保管場所ごとに管理するグループを1年間固定することとした。管理場所を固定したことによる効果を検討する。

## 【方法】

1ヶ月ごとに物品管理場所を変更していた2015年度と、管理場所を固定した2016年度以降の物品紛失数にどの程度の差がみられたかを検討する。また管理場所を固定し整理整頓が持続し、業務にかかる手間の削減や管理が効率化できているかを検討する。

## 【結果】

1ヶ月ごとに物品管理場所を変更していた2015年度は278個、管理場所を固定した2016年度は40個の物品紛失報告が挙げられた。2017年度以降も物品紛失報告は1ヶ月ごとに管理場所を変更していた時よりも少なかった。管理場所が固定されると物品位置の把握が行いやすく、物品の有無の確認と同時に整理整頓も行うため物品の配置が一定となった。また、整理整頓が進んだことで物品が見てわかる位置にあるため、物品紛失がすぐに分かり検索することができ早期に発見に至った。

## 【まとめ】

責任の所在が明確になったこと、管理物品が固定されたことで物品紛失は減少し、必要な機器が適切に使用できる環境となった。また物品の位置も1週間に一度見直すことができ綺麗な環境を維持することができた。